

## ◆司

私は北新地という素晴らしい地で、独立して早や39年が過ぎてしまいました。振り返ると日本が大きく経済成長し、新型コロナの発生により、休業や時短営業などの厳しい状況下に至るまで、沢山の経験をさせて頂きました。

その苦しい中を見守り、応援して下さる心の広い素晴らしいお客様が、北新地には数多くおられるからこそ、私共は営業を続けさせて頂き、耐えてこれたのでは…と思います。最近はお客様もお食事まではお付き合います下さいますが、2次会、3次会のご辞退が多くなりました。

しかし、お客様との「触れ合い」「寄り添い」の大切さ、必要性をもう一度認識して、「おもてなし」の原点をお客様に気づいて頂く努力を、私共は考え、勉強することが必要ではないかと反省いたしております。

北新地で飲食して頂ける良さなどのPR活動を、皆様と共にアイデアを出し合い、努力していくことが出来たら…と、切に願っています。

## ◆ママンのい

私が新地に足を踏み入れたのは、今から53年前の21歳の時でした。結婚に失敗して、子供もいるので友達の勧めで働き始めました。

その頃の新地はビルは少なく、大きなお店が多く、勤めるクラブは平屋の一階にありました。店ではバンド演奏があり、フロアーでは紳士とドレス姿の女性が華麗に踊っていて、これが新地の社交場なのだと思います。

新地本通を歩く人は、着物姿かドレス姿の紳士淑女しかいなかった。ここ何年か前からはジーンズ姿や、夏は短パンなどの人を見かける様になりましたが…。それに、低料金焼き鳥屋が出来たり、回転寿司屋が出来たりと、驚きの連続です。

今では新地もビルが多くなり、1階から6階ぐらいたくまで小さなお店がたくさん入り、女の子達もアルバイトでしか働かないという有様です。昔はアルバイトなんて軽い気持ちで働く人は一人もいなくて、皆んな真剣でした。まさに隔世の感ありです。

開店前にはミーティングもあり、あれこれと厳しく指導されたものでした。やはり厳しく指導された事は、後々になって本当のためになっていると痛感しています。これからも新地が少しでも昔の様になって欲しいと切に願っています。

### ◆ サロン君屋

昭和39年の東京オリンピック、万国博覧会、オイルショック、バブル期、阪神大震災、コロナ禍のすべてを北新地在籍中に体験!! 58年間の多くの出会いと別れを深く心に刻み、今も愛して止まない北新地の移り変わりを父から息子へ継がれ、若き起業家たちの頼もしさ! 北新地はまだ捨てたモノではない。ホステスさんも変わった。大学卒業後、社会人として上場企業に勤めていたが、北新地で社会勉強をと…。息子のようなお客様に、娘のようなスタッフに助けられて、78歳の今も第一線に立てる幸せを噛みしめる。

### ◆ 上通り森口

当時60坪あった老舗クラブが、唯一出した求人に応募して私の北新地は始まりました。お酒の飲めない29歳、両親二人の子供付き。そのうえ、話し下手。四重苦の始まりながら、真面目ひと筋16年。ママになるまで育てて戴きました。子供の自立と共に独立。

藤田まことさんの店だったモンドを薦められ、美しい木目のクラシックな店内が好評で28年が過ぎました。特筆すべきは組合との事。還暦過ぎの出会いながら、善意に満ちた皆様との交流は今も私の宝物です。

### ◆ クラブ山咲

北新地デビュー当時、右も左もわからぬ私に、品格あるこの街の諸先輩方や魅力的で博識あるお客様が、多くの事を教えてくださいました。

北新地の一番の素晴らしさは、掛け値なしに頑張っている人を素直に認め、良いものを正しく良いと評価するところにあると思います。

常に謙虚な心構えで、自身を育てていただいた感謝を込めて、前途ある後進とともに、北新地のあるべき姿を存続できるよう、精進して参りたいと思っております。

### ◆ N・S

初めてお店に立ったのは20歳の時です。ひどく緊張していたことを覚えています。

何もできない状態から、「自分にできることは何か」をひたすら追求して参りました。

お客様からは時に優しく、時に厳しく、ホステスとして、ママとして、どうあるべきかを教えて頂きました。コロナ禍の今、懸命に頑張っている女の子達の姿は、当時の私と重なるように感じております。

これからも、北新地のおもてなしの心が継承される事を願うばかりです。



Y・M

夜の社交場、最高級の街、北新地でお世話になって33年になります。30年前のバブルは弾けたものの、まだその余韻が残り街には活気がありました。

尊敬する諸先輩方々に、おもてなしの心得をお勉強させてもらい、素敵なお客様とのご縁も繋いで頂きました。私の人生、北新地には沢山の思い出と感謝しかございません。これからも、自分自身、愛と夢とロマンを抱いて、お客様に明日への希望と活力を感じて頂けるよう、日々、精進して参ります。



R・Y

きらびやかで賑やかで艶やかな、あの街には何があるのだろうか、畏怖と共に憧れた。

好奇心と若さとただの自信過剰な心意気で、なりたいた自分を演じ切れる可能性を夢見た。百戦錬磨のお客様が、自分を必要とされるかどうか。一流のお客様に見合う心の品格が問われ、苦悩した。中途半端な自分に怒ってくれたママがいた。見捨てずにいてくれたお客様がいた。すべては「愛」でしかなかったと今では分る。生き残るには、信用を得るには、不器用であろうが生真面目こそが命。足るを知り、礼儀と節度。結局は人間性だと悟る。



Y・U

北新地で20年、「夜の商工会議所」と呼ばれるお店で、8年お世話になり、その間に街の景色も随分変わりました。沢山のお客様とお顔を合わせてお話をする時間を頂きました。東の銀座と並び称される西の北新地。「ホステスが男性（お客様を口説く街」と囁かれ、魅力的なお客様を目の当たりにし、憧れを抱きました。この街はこれからもそんな街であり続けて欲しいです。

先達の教えに学び、灯を絶やさぬよう励んで参ります。



N・I

20年前の秋、求人雑誌を片手に新地本通りで立ちすくんでいました。配達途中の酒屋さんに目的のビルを教えてもらい、何とか面接には間に合った……。そんな懐かしい思い出が蘇ります。今は携帯の位置情報で自分がどこにいるのかが分り、ストリートビューでビルの外観も分ります。メイクも動画で学べます。多様化する価値観や様々な情報に埋め尽くされる昨今、ホステスという職業への抵抗感は薄れ、アルバイト勤務の人も多くなりました。しかし、時代を経て変わるべきでない姿を学び続けたいと思います。